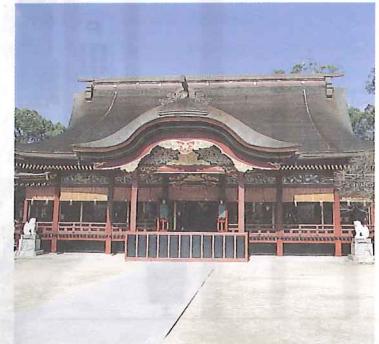


ごあんない

太宰府天満宮



由来

太宰府天満宮は、菅原道真公（菅公）の御墓所の上に社殿を造営して、その神靈を奉祀する神社で、学問の神、誠心の神として世の崇敬を集めている。

延喜三年（九〇三）二月二十五日、菅公は太宰府の南館（榎社）において清らかな御生涯を終えられた。その後、御遺骸を牛車に乗せて進んだところ、間もなくその牛が伏して動かなくなつた。これは、菅公の御心によるものであつたが、その聖地に御遺骸を葬つた。京より追従した、門弟味酒安行は延喜五年ここに墓所と神殿を創建、次いで左大臣藤原仲平は勅を奉じて太宰府に下つて造営を進め、延喜十九年に御社殿を建立した。

醍醐天皇は大いに菅公の生前の忠誠を追想されて延長元年（九三三）にもとの官職に戻された。そして、一条天皇の正暦四年（九三三）には正一位左大臣、更に太政大臣を贈られ、天満大自在天神（天神さま）と崇められた。その後、何度も勅使の下向があり、朝廷の特別な崇敬をうける「三十二社」に準ぜられた。

明治四年（一八七一）、国幣小社に、同十五年には官幣小社、同二十八年には官幣中社に社格を進められ、天神信仰の聖地として年間六五〇万余の参拝があり、日本全国より尊崇を集めている。

御祭神の事蹟

菅原家の先祖は、出雲臣の祖神とされた天穗日命であり、その

十四世野見宿禰公の子孫で土師氏を称していたが、桓武天皇の御代に菅原の姓を名のるようになつた。菅公の御父は是善公といい御母は大伴氏の出身で、承和十二年（八四五）乙丑六月二十五日に京都の菅原院にて御生誕、幼名を「阿呼」又は「吉祥丸」といわれた。

幼少の頃より学問を好み詩歌にもすぐれ、五歳の時に庭前の梅花を見て

うつくしや紅の色なる梅の花

あこが顔にもつけたくぞある

と和歌を詠まれ、十一歳の時には「月夜に梅花を見る」の詩を作られた。

三十三歳で文章博士となられ、四十二歳の時に讃岐守として四年間の地方官生活を送られ、名国司として領民に慕われた。帰京後は宇多天皇の理想政治のもとで信任を受け蔵人頭に任命され、五十五歳の時には右大臣にまで昇進された。更に昌泰四年（九〇二）正月七日、五十七歳で從二位を授かつたが時の左大臣藤原時平の讒言（事實をいつわり、他人を悪く言うこと）により同月二十五日太宰權帥に左遷させられた。

二月一日の京都御出発に際して紅梅殿の梅に別れを惜しまれ、東風吹かば匂ひおこせよ梅の花

あるじなしと春な忘れそ

と詠せられ、その梅が菅公を慕つて飛来したのが御本殿前の「飛梅」であると伝えられている。

菅公は太宰府へ下向の道すがら、河内國土師の里（藤井寺市）、道明寺の叔母君齋寿尼に別れを告げられ、瀬戸内海の海路を使つて九州に至り、三月上旬太宰府にお着きになられた。しかし、政務の実権はなく、太宰府の配所（榎社）を一步も門外に出られずひたすら謹慎の御生活を送られた。そのような苦しい配所においても天を恨まず、人を憎まず、国家の繁栄と皇室の御安泰を祈られた。九月十日恩賜の御衣を捧げて

去年の今夜 清涼に待す

秋思の詩篇 独り断腸

恩賜の御衣 今此に在り

捧持して 每日余香を拝す

と詠まれたことは広く知られるところである。いつの日か無実の罪が晴れることを願つておられたが、延喜三年（九〇三）二月二十五日、再び京の地を踏むことなく御年五十九歳で亡くなられた。

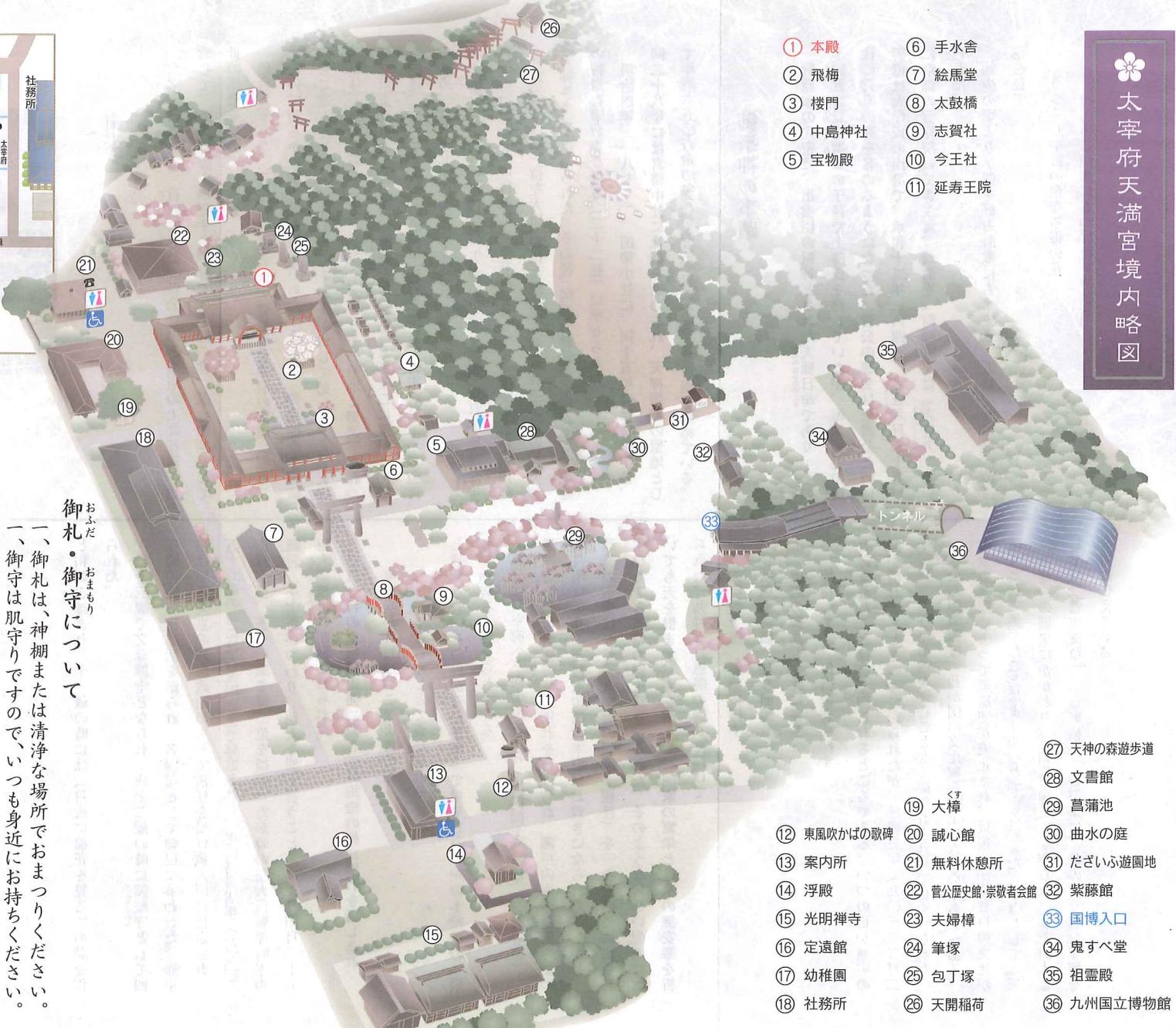
菅公の御事蹟は、我が国の文化興隆の上に大きなものがある。菅公の建議によつて遣唐使が廃止され、以後我が国独自の文化が隆々として興つたことはよく知られている。また、学者として「三代実錄」の編集にかかり、「類聚国史」を作られ、また詩人としては「菅家文草」「菅家後集」の詩集に、公のすぐれた才能を今日に伝えている。



太宰府天満宮境内略図

- ① 本殿
- ② 飛梅
- ③ 樓門
- ④ 中島神社
- ⑤ 宝物殿
- ⑥ 手水舍
- ⑦ 絵馬堂
- ⑧ 太鼓橋
- ⑨ 志賀社
- ⑩ 今王社
- ⑪ 延寿王院

- ⑫ 東風吹かばの歌碑
- ⑬ 案内所
- ⑭ 浮殿
- ⑮ 光明禪寺
- ⑯ 定遠館
- ⑰ 幼稚園
- ⑱ 社務所
- ⑲ 大樟
- ⑳ 誠心館
- ㉑ 無料休憩所
- ㉒ 菅公歴史館・崇敬者会館
- ㉓ 夫婦樟
- ㉔ 筆塚
- ㉕ 包丁塚
- ㉖ 天開稻荷
- ㉗ 天神の森遊歩道
- ㉘ 文書館
- ㉙ 菖蒲池
- ㉚ 曲水の庭
- ㉛ だざいふ遊園地
- ㉜ 紫藤館
- ㉝ 国博入口
- ㉞ 鬼すべ堂
- ㉟ 祖靈殿
- ㉞ 九州国立博物館



駐車場地図



御札・御守について

一、御札は、神棚または清浄な場所でおまつりください。
一、御守は肌守りですので、いつも身近にお持ちください。
一、御札・御守は毎年新しくお受けになるのが日本古来
よりの習わしです。
一、古くなつた御札・御守は、天神さまの御守護を戴いた
感謝の気持をもつて、当宮へお納めください。

※【御祈願】お守【御希望の方は、「学業係」までお電話にてお問い合わせください。】
太宰府天満宮社務所
0195-01818-12525
福岡県太宰府市宰府四丁目七番一号
電話(代表)(092)922-18225
FAX(092)922-012525
<http://www.dazaifutenmangu.or.jp/>